

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年1月27日

上場会社名 養命酒製造株式会社
 コード番号 2540 URL <http://www.yomeishu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長
 四半期報告書提出予定日 平成23年1月31日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東 名

(氏名) 塩澤 太朗

(氏名) 田中 英雄

TEL 03-3462-8138

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	9,526	△4.3	631	△65.8	837	△59.3	532	△56.3
22年3月期第3四半期	9,956	△9.4	1,847	△14.3	2,059	△13.9	1,219	△19.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	17.73	—
22年3月期第3四半期	38.84	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	33,277	30,002	90.2	998.51
22年3月期	33,867	30,346	89.6	1,009.91

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 30,002百万円 22年3月期 30,346百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	—	—	18.00	18.00
23年3月期	—	—	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	18.00	18.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	△2.6	710	△55.8	940	△48.9	570	△46.8	18.97

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】4ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期3Q 33,000,000株 22年3月期 33,000,000株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 2,952,561株 22年3月期 2,951,332株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期3Q 30,048,303株 22年3月期3Q 31,405,268株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報.....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報.....	3
2. その他の情報.....	4
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要.....	4
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要.....	4
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要.....	4
3. 四半期財務諸表.....	5
(1) 四半期貸借対照表.....	5
(2) 四半期損益計算書.....	7
【第3四半期累計期間】.....	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書.....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記.....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記.....	9
4. 補足情報.....	9
(1) 生産、受注及び販売の状況.....	9

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）におけるわが国経済は、政府の景気対策等を背景として一部に回復傾向が見られたものの、厳しい雇用情勢や所得環境を背景とした個人消費の低迷が続く中、円高の進行等もあり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社の関連業界におきましても、業種・業態を越えた企業間競争の激化や流通における再編が継続し、生活防衛意識の高まりによる生活者の節約志向が続く厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中で、当社は、第2次中期経営計画（平成19年4月から平成23年3月まで）の最終年度に当たり、「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という経営理念の下、「少子高齢化社会に即した成長戦略の実現により企業価値を高める」ことを基本方針に、中期経営計画の主要戦略である「新たな成長事業の推進」に基づく新商品・新事業の基盤の構築にかかる諸施策に取り組むとともに、「養命酒」の収益構造の維持に努めました。

「新たな成長事業の推進」の取組みといたしましては、酒系市場におきまして、平成22年3月に発売したリキュール「ハーブの恵み」に経営資源を集中し、商品認知を図るとともに味のイメージを伝える活動を行い、取扱店の確保とユーザーの獲得に努めました。また、「ハーブの恵み」を中心とした周辺市場の取込みを目指し、新たな商品の開発に着手いたしました。長野県の諏訪湖畔における社有地の有効活用を図り、飲食や物販事業を通して生活者の皆様に安全で健康的な食やサービスの提供を目指し4月下旬に開業した「くらすわ」につきましては、集客に積極的に取り組むとともに、物販における取扱商品の見直しやオリジナル商品の販売チャネルの拡充に取り組みしました。

主力商品「養命酒」につきましては、薬味酒「養命酒」の販売終了に伴い「薬用 養命酒」のブランド強化と効率的な広告の実施に取り組みしました。

この結果、薬味酒「養命酒」の販売終了による売上高の減少を受ける中、10月以降は「養命酒」に加えて新商品「ハーブの恵み」と新事業「くらすわ」の売上も計画通りに推移し、売上高は9,526百万円（前年同期比4.3%減）となりました。利益面につきましては、新商品「ハーブの恵み」の商品認知のための広告宣伝や新事業「くらすわ」の開業に伴う費用等を投入する一方、計画的な販売促進活動に努め、営業利益は631百万円（前年同期比65.8%減）、経常利益は837百万円（前年同期比59.3%減）、四半期純利益は532百万円（前年同期比56.3%減）となりました。

セグメント別には、次のとおりであります。

①養命酒関連事業

主力商品「養命酒」につきましては、各施策の費用対効果等の再検証による広告活動の見直しを引き続き行い、販売促進活動の再構築を図るとともにテレビスポット広告や雑誌、新聞、ウェブ等の各種媒体の訴求効果を活かした広告を実施し、広告と連動した店頭における販売促進活動を展開いたしました。また、主力購買層を中心に雑誌等印刷媒体により「養命酒」の生薬をテーマとした訴求を行い商品の理解の向上に努めました。海外におきましては、既存の東南アジア諸国を中心として各国の市場環境に即したマーケティング活動の展開や見直しに取り組み、「養命酒」の理解と知名度の向上や商戦期となる春節に向けた店頭における販売促進活動の強化に努めました。

「ハーブの恵み」につきましては、商品認知を高めるための集中的なテレビスポット広告や、味のイメージを伝えるためのサンプルプレゼントキャンペーンを実施するとともに、取扱店舗数の拡大に努めました。また、イベントの開催やラジオ、雑誌、ウェブ、交通広告等の広告媒体を活用し、「心と体の癒しのお酒」という商品コンセプトを30代から50代の女性を中心に訴求し、販売促進活動を展開いたしました。

以上の結果、「養命酒」の売上に「ハーブの恵み」、「家醸本みりん」、「ミネラルウォーター」、ドリンク剤「リオン」、インターネット通信販売サイト「養命酒本舗」等の売上を合算いたしまして、養命酒関連事業の売上高は9,166百万円となりました。

②施設運営事業

平成22年4月下旬に開業いたしました「くらすわ」につきましては、物販においては地元信州の食材と当社の生薬やハーブに関する知見を活かした商品の販売を行い、レストランにおいては地元信州の旬野菜や豚肉等の素材の良さを活かし、「おいしさ」や「安心・安全」に配慮した料理メニューの充実にも努めるとともに、各種イベント等を開催いたしました。また、生活者の皆様のニーズや季節に応じたオリジナル商品の開発・販売や新たな料理メニューの提供、イベントの開催により集客に努めました。

以上の結果、「くらすわ」の売上に駒ヶ根工場見学施設「養命酒健康の森」の売上が合算いたしました。施設運営事業の売上高は255百万円となりました。

③その他

不動産賃貸事業の売上高は、本店ビルのテナント賃貸収入などにより、104百万円となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期末における総資産は、前期末に比べ590百万円減少し、33,277百万円となりました。

流動資産は、前期末に比べ52百万円減少し、9,564百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金が1,393百万円増加した一方で、運用資産の更新等により有価証券が997百万円減少したことと、たな卸資産が370百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前期末に比べ537百万円減少し、23,713百万円となりました。これは主に有形固定資産の減価償却等による434百万円の減少と、投資有価証券が国債の取得のほか保有株式の時価評価が低下したこと等により167百万円減少したことによるものであります。

流動負債は、前期末に比べ90百万円減少し、2,156百万円となりました。これは主にその他に含まれる未払費用が153百万円増加した一方で、法人税等、賞与金の支払いにより、未払法人税等が153百万円、賞与引当金が131百万円それぞれ減少したことによるものであります。

固定負債は、前期末に比べ155百万円減少し、1,118百万円となりました。これは主に繰延税金負債が保有株式の時価評価の低下に伴い223百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前期末に比べ343百万円減少し、30,002百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金が335百万円減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末に比べ562百万円減少し、2,612百万円となりました。

営業活動の結果増加した資金は146百万円（前年同期比79.5%減）となりました。これは主に税引前四半期純利益820百万円、減価償却費603百万円、売上債権の増加額1,393百万円、たな卸資産の減少額370百万円、未払費用の増加額160百万円及び法人税等の支払額497百万円によるものであります。

投資活動の結果減少した資金は169百万円（前年同期比47.6%減）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出179百万円によるものであります。

財務活動の結果減少した資金は539百万円（前年同期比70.5%減）となりました。これは主に配当金の支払額538百万円によるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成22年10月27日発表の通期の業績予想に変更はありません。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

③ 法人税等の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これによる営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響はありません。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,172,389	2,304,433
受取手形及び売掛金	3,737,316	2,343,325
有価証券	2,602,639	3,600,243
商品及び製品	253,762	555,992
仕掛品	154,388	185,940
原材料及び貯蔵品	322,138	359,047
その他	321,453	268,038
流動資産合計	9,564,088	9,617,021
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,007,498	4,187,013
その他(純額)	3,501,065	3,755,932
有形固定資産合計	7,508,564	7,942,946
無形固定資産		
	84,014	138,585
投資その他の資産		
投資有価証券	11,353,339	11,520,363
その他	4,773,585	4,655,248
貸倒引当金	△6,299	△6,299
投資その他の資産合計	16,120,624	16,169,312
固定資産合計	23,713,203	24,250,843
資産合計	33,277,292	33,867,865
負債の部		
流動負債		
買掛金	234,796	269,836
未払法人税等	—	153,585
賞与引当金	107,540	238,704
その他	1,814,232	1,585,241
流動負債合計	2,156,568	2,247,368
固定負債		
繰延税金負債	35,300	258,657
退職給付引当金	65,711	65,445
役員退職慰労引当金	50,850	50,850
その他	966,259	898,965
固定負債合計	1,118,121	1,273,918
負債合計	3,274,690	3,521,287

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,650,000	1,650,000
資本剰余金	676,680	676,680
利益剰余金	30,439,447	30,447,444
自己株式	△2,881,146	△2,880,186
株主資本合計	29,884,981	29,893,938
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	117,620	452,639
評価・換算差額等合計	117,620	452,639
純資産合計	30,002,601	30,346,578
負債純資産合計	33,277,292	33,867,865

(2) 四半期損益計算書
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	9,956,180	9,526,356
売上原価	3,074,514	3,202,141
売上総利益	6,881,666	6,324,214
販売費及び一般管理費	5,033,748	5,692,448
営業利益	1,847,918	631,766
営業外収益		
受取利息	48,647	39,530
受取配当金	149,938	157,864
その他	31,719	23,122
営業外収益合計	230,305	220,517
営業外費用		
支払利息	18,182	13,870
その他	707	421
営業外費用合計	18,890	14,292
経常利益	2,059,333	837,991
特別利益		
固定資産売却益	645	8,696
特別利益合計	645	8,696
特別損失		
固定資産除却損	49,773	1,591
投資有価証券評価損	19,217	25,064
特別損失合計	68,990	26,655
税引前四半期純利益	1,990,988	820,032
法人税、住民税及び事業税	780,000	275,000
法人税等調整額	△8,777	12,153
法人税等合計	771,222	287,153
四半期純利益	1,219,765	532,878

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	1,990,988	820,032
減価償却費	566,320	603,502
賞与引当金の増減額(△は減少)	△151,672	△131,164
退職給付引当金の増減額(△は減少)	28,818	266
受取利息及び受取配当金	△198,585	△197,394
支払利息	18,182	13,870
有形固定資産売却損益(△は益)	△645	△8,696
有形固定資産除却損	49,773	1,591
投資有価証券評価損益(△は益)	19,217	25,064
売上債権の増減額(△は増加)	△1,087,681	△1,393,990
たな卸資産の増減額(△は増加)	9,135	370,691
仕入債務の増減額(△は減少)	2,715	△35,040
未払費用の増減額(△は減少)	276,974	160,776
未払消費税等の増減額(△は減少)	△28,595	82,165
その他	136,664	158,939
小計	1,631,610	470,616
利息及び配当金の受取額	203,543	195,422
利息の支払額	△20,703	△21,517
法人税等の支払額	△1,101,377	△497,987
営業活動によるキャッシュ・フロー	713,072	146,533
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,400,000	△2,030,000
定期預金の払戻による収入	2,200,000	1,500,000
有価証券の償還による収入	500,000	1,500,000
有形固定資産の取得による支出	△1,096,683	△179,766
有形固定資産の売却による収入	800	9,900
無形固定資産の取得による支出	△950	△4,893
投資有価証券の取得による支出	△525,555	△1,003,435
その他	—	39,173
投資活動によるキャッシュ・フロー	△322,388	△169,021
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,050,000	1,050,000
短期借入金の返済による支出	△1,050,000	△1,050,000
自己株式の取得による支出	△1,260,732	△960
配当金の支払額	△566,498	△538,595
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,827,231	△539,555
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,436,547	△562,043
現金及び現金同等物の期首残高	5,459,816	3,174,433
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,023,269	2,612,389

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

セグメント別売上高内訳表

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 自平成22年4月1日 至平成22年12月31日
養命酒関連事業	9,166,509
養命酒	8,724,318
(うち輸出分)	(371,251)
その他	442,191
施設運営事業	255,148
その他	104,699
合計	9,526,356

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。